

IF

Feuilles
d'automne
読書の秋

10/20 → 11/23

読書の秋 2020

FESTIVAL FEUILLES D'AUTOMNE 2020



©Aude Picault



AMBASSADE
DE FRANCE
AU JAPON
*Liberté
Égalité
Fraternité*



IF
INSTITUT
FRANÇAIS

af
Alliance Française

10年あまりの間、『読書の秋』フェスティバルは日仏の作家たちに、文学、バンド・デシネ、そしてマンガにちなんだ彼らの意見を発信し、作家同士で語り合う機会を提供してきました。

今日、現在も進行中の感染の危機によって深刻な打撃を受けたフランスと日本の作家と出版業者を支援し続けることが、かつてなく重要となっています。ですからアンスティチュ・フランセ日本とアリアンス・フランセズ日本、そしてその多くのパートナー団体・企業は、第13回目のフェスティバルを実行することを決定いたしました。現在新邦訳が話題を呼んでいる3人のフランス人作家を招聘し、それぞれが日本人作家とオンラインライブで対談します。またBDとアニメに見る『女性たち』というテーマについての討論会/上映会を開催いたします。

これらの対談はオンラインで在日フランス文化ネットワークの各支所において配信されます。もちろん誰でもインターネットで参加できますし、参加者はネット上のチャットを利用して登壇者に質問をすることができます。

在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本は、これからも私たちを支援し、文学を巡る日仏文化間の対話のために尽くして下さるすべてのパートナーの皆様に、心からお礼を申し上げます。

それでは、良いフェスティバルをお楽しみください！

プログラムと作家のご紹介

今年の対談は、アンスティチュ・フランセ日本のYoutubeで直接ライブ配信されます。日本語—フランス語の同時通訳付きで行われます。
<https://www.youtube.com/user/instituttokyo>

アンスティチュ・フランセあるいはアリアンス・フランセズによるイベントのライブ配信の有無については、両機関のサイトをご参照下さい。

『読書の秋 2020』に登壇する作家の顔ぶれは、アンスティチュ・フランセのサイトをご覧ください：ビデオインタビュー、邦訳出版された作品の紹介、その他の情報をご覧ください。
<https://www.institutfrancais.jp/fa2020/>

プログラムは場合により変更になる場合がありますので予めご了承ください。最新情報は公式ウェブサイトをご覧ください。



Laetitia COLOMBANI レティシア・コロンバニ



© Céline Nieszawer

レティシア・コロンバニは映画監督、脚本家、女優。監督作品の2作(『愛してる、愛してない…』と『スターと私』)の他に、演劇の脚本も手掛ける。イタリア、インド、カナダの3人の女性の運命を描いた彼女の初の小説『三つ編み』は、2017年5月にグラッセ社より刊行後、驚異的な成功を収めた。フランスと海外で文学賞を受賞し、多くの国で翻訳出版され、著者自身の脚本で映画化が進められ、さらに絵本にもなった。日本では2019年に早川書房から刊行された。その後もレティシア・コロンバニは、女性にオマージュを捧げ、励ますため執筆を続けている。本年出版された第二作『彼女たちの部屋』は、困難な人生を抱える女性が身を寄せる保護施設「女性会館」を描いている。本作は刊行されるやベストセラーの仲間入りをし、日本では今春早川書房より出版された。

『三つ編み』 齋藤 可津子 訳 早川書房

3人の女性、3つの人生、3大陸。インド。不可触民のスマタは、娘には悲惨な状況を抜け出して欲しいと願い、学校に通わせることを夢見る。シシリー島。ジュリアは父親の工場で働いている。父が事故に遭い、家業が倒産の危機にあることを知る。カナダ。辣腕弁護士として評判のサラは、所属する弁護士事務所のトップに昇進しようとしていたが、重い病を得ていることに気付く。スマタ、ジュリア、サラは、彼女達を深い所で不思議な形で結びつけるもの知らずに、運命に従うことを拒み、闘うことを決断する。響き合う人間性が、希望と連帯の三つ編みを編んでいく。『三つ編み』は36か国語に訳され、2017年女性経済文学賞、2018年クリスタルグロブ賞など20以上の国内外の文学賞を受賞している。



© 早川書房 2019

11月21日(土)18時-19時30分 (日仏語同時通訳)

対談 レティシア・コロンバニと中江有里
 司会 浜田敬子(Business Insider Japan 統括編集長)



協賛：早川書房

共催：ヨーロッパ文芸フェスティバル © オフィスクレヨン

レティシア・コロンバニと中江有里はそれぞれ映画とテレビのために脚本を書き、中江は演じ、コロンバニは監督を務めました。彼女たちの映画をめぐる絆はとても強いものですが、本と読書は彼女たちにとって必須のものであり、二人とも小説を書こうと決心したのです。この対談で二人の作家は文学、映画、そして自身の経験を通して、女性たちの人気を人々に理解させ、それを知らしめることの重要性について話し合います。

本イベントは「ヨーロッパ文芸フェスティバル2020」と連携しています。

Aude PICAULT オード・ピコー

オード・ピコーは2004年に*Moi je*を自費出版しデビューした、BDタイプもジャンルも読者層も幅広い作家。現在までに10作品あまりを制作しており、なかでも「喪」を扱った『パパ』*Papa* (ラソシアシオン、2006年)や、エロチックなBD『伯爵夫人』*Comtesse* (Les Requins marteaux, 2010) が話題となる。また、若者に向けた『レ・メロ・マニアク』*Les mélo maniaqs* (Glénat, 2008)や、絵本『絵を描きたかったねずみ (仮題)』*La souris qui voulait peindre* (Kaléidoscope, 2019) など、若年層へ向けた作品の制作にも力を入れている。



© Mathieu de Pasquale

『クレール パリの女の子が探す「幸せ」な「普通」の日々』

大西愛子 訳

DU BOOKS



© DU BOOKS 2017

30代の女性クレールは新生児病棟担当のナース。恋愛では失敗続きながらも、これ以外ない理想のカップルを築こうと奮闘する。理想の男性と思えたフランクと同棲しようと思ったのは、ついに運命の人に会えたのだと思ったから。でも、彼女を待っていた標準的な現実とは、その高みに届くものではないようで…



© 鳥飼茜 / 講談社

10月24日(土) 18時-19時30分 (日仏語同時通訳)

対談 オード・ピコーと 鳥飼茜

司会 ユー・スギョン (京都精華大学マンガ学部講師)

共催: 京都国際マンガミュージアム
京都精華大学国際マンガ研究センター
北九州市漫画ミュージアム

協力: DU BOOKS

社会のプレッシャー、日常のデリケートな問題、仕事と家庭の両立、性問題など。日々の生活の中で女性たちを取り巻く問題を女性の視点から書き出した作品で多くの読者の支持を得ているマンガ家、オード・ピコーと鳥飼茜が対談をします。二人の作品や、そのインスピレーションの源、女性としての経験など、幅広いテーマについて語っていただきます。

Laurent BINET ローラン・ビネ



© JF PAGA

10月31日(土) 18時-19時30分
(日仏語同時通訳)

対談 ローラン・ビネと平野啓一郎

司会 佐々木敦

協力: 東京創元社



© 撮影: 瀧本幹也

ローラン・ビネと平野啓一郎という、その作品において歴史的、社会的問題に妥協せずに取り組んできた二人の作家がこのイベントで出会います。彼らは既存概念を超えて、そこに新しい視点から光をあてることを試みています。対談では文芸評論家の佐々木敦が、特に歴史と文学の繋がりについて問いかけながら司会を務めます。

『言語の七番目の機能』

高橋 啓 訳

東京創元社

1982年、大統領候補ミッテランとの会食直後、交通事故に遭い死亡した哲学者で記号学者ロラン・バルト。彼の手元からはある重要な文書が消えていた。これは事故ではない。暗殺だったのだ! 捜査にあたる警視と若き記号学者の二人以外の主要登場人物のほとんどが綺羅星のごとき実在の人物たち。フーコー、デリダ、クリステヴァ、エーコ……。謎の秘密組織<ロゴス・クラブ>とは何か? 傑作記号学ミステリ。

フナック小説賞
アンテラリエ賞2015



© 東京創元社 2020

11月17日(火) 18時-19時30分 (日本語のみ)

好きなように「図太く」生きる!

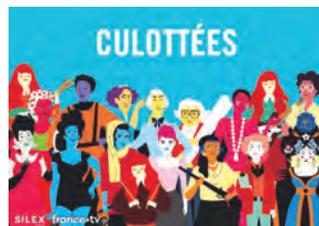
フランスの女性向けバンドデシネとアニメを通じて学ぶ、これからの女性の生き方

登壇者: はらだ有彩(漫画家)、ミュリエル・ジョリヴェ(社会学者)

司会: 浜田敬子(Business Insider Japan統括編集長)

助成: ヴェオリア・ジャパン株式会社

協力: DU BOOKS、柏書房、ヒューマンライツナウ、日本女性学研究会、パリテカフェ



© Silex Films / France Télévisions

自分の情熱を追い求める勇気を持ち、女性を取り巻く現状を動かし、美の規範に囚われないで生きるにはどうすればよいのでしょうか? バンドデシネとアニメからヒントを得られるかもしれません。特にベネローブ・バジューの『キュロテ』に描かれる世界中の女性達の姿には励まされます。本討論会は『キュロテ』の短編アニメのエピソードに触れながらこのテーマを考えます。

第3回目 « COIN FRANÇAIS » の開催！

開催期間

10月1日～31日

(期間はお店により若干異なります)

紀伊國屋書店 × アンスティチュ・フランセ日本
新宿本店・横浜店・札幌本店・梅田本店・福岡本店

紀伊國屋書店 とアンスティチュ・フランセ日本が第三回目のコラボレーションとして、今年も « Coin français » を開催します。10月1日より約1ヶ月間、フランス語から翻訳された文学、児童書、コミック、人文書などを展示販売します。昨年のお宿本店に加え、横浜店・札幌本店・梅田本店・福岡本店にて今年の新刊を中心にをご紹介します。パンフレットで2020年のおすすめをご紹介しますのでぜひ店頭でご覧ください！



コロナ感染対策により営業時間や開催日程に急な変更が入る場合がございます。お出かけ前に各店舗までお問い合わせください

紀伊國屋書店

新宿本店	10/1 - 10/31	TEL 03-3354-0131
横浜店	10/1 - 10/24	TEL 045-450-5901
札幌本店	10/1 - 10/21	TEL 011-231-2131
梅田本店	10/1 - 10/31	TEL 06-6372-5821
福岡本店	10/1 - 10/31	TEL 092-434-3100

主催



助成・協賛



共催



協力・パートナー

